

●2004年12月記録会は12月19日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)

●2005年1月記録会は1月16日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

早、ランチャーズ04年の最終号です。今年は天候異常で我々模型飛行機屋には不本意なシーズンでした。今年、ついにUHLGブームが爆発。体力が無くても高度が取れるという事は素晴らしい。そのせいか、HLGを投げられる年齢も広がって記録会の参加者も毎回増えて騒がしいぐらいの盛会です。UHLGがすっかり定着し、いや、定着しすぎでランチャーの過半がUHLGに転向しました。UHLGだけになっても面白くないので、UHLGは60才以上に限るとか考えねば・・・。腕力で飛行機が凄い高度を取るのには爽快です。男・飛行機、やめられませんね・・・。

- | | | |
|-------|------------------|------------------|
| 記録会報告 | ①2004年10月記録会/HLG | ②2004年10月記録会/PLG |
| | ③2004年11月記録会/HLG | ④2004年11月記録会/PLG |
| | ⑤日本選手権報告 | ⑥国際級ジュニア競技会報告 |
| お知らせ | ⑦選手会の新年会案内 | ⑧湘南大会案内 |
| | ⑨寒中杯案内 | |
| FFサロン | ⑩インドアハンドランチの楽しみ | ⑪UHLG・伊東機の紹介 |
| 雑談天国 | ⑫或るFF屋の一日 | |
| 編集後記 | | |

◆2004年10月記録会の結果(HLG/CLG)

★10月HLG記録会報告

1. 相沢、2. 平尾・・・①

今回は関西の小西さんを偲んでの「小西さん追悼大会」でした。表彰時に大八木さんから紹介されたとおり、小西さんは豪快なお人柄で関西在住でありながら我々関東人も競技会などを通じ影響を受け、また大変お世話になった方でした。あまりに早く旅立たれてしまいました。残念でなりません。改めて、ご冥福をお祈りいたします。

3週連続で日曜が台風、雨。練習不足の感がありましたが、天候に恵まれ4名でのフライオフとあいなりました。今回は前回9月に続き新潟から参加の朱鷺色HLGの細海さん、常連の春山さん、久しぶりの吉野さん、池田さんで決戦。池田さん以外はUHLG、池田さんは今では小型になってしまった50cmクラスのオーバーハンドHLGで奮戦。フライオフ3回までもつれこむ熱戦の末、優勝したのは2位(池田さん)と3秒差の吉野さんでした。5位の吉田さんは無念の1秒落ち、復調途中の井村さんが6位、7位はもうひとりの新潟人の長井さん。ここまでが290秒台でまさに激戦です。今シーズン、新潟勢が好調です。新潟のHLG事情などを機関誌「Launchers」に紹介してもらおうことになっています。もうお一人、注目は三田さんです。今回は2max 274秒で10位でしたが徐々にしっかり成績を伸ばして来ていますので次回に期待が持てます。(以上相沢)

前半集まり方が遅く、少数精鋭の戦いかと思っていると、始まるとパラパラと集って終わってみるとなかなかの競技会でした。この日のサーマルは難しい方で、バカバカ出したのは遅れてきて優勝した吉野選手ぐらいなもの。大部分は最終5投目のMAXで苦戦していました。

すっかりUHLGが定着して高度ではHLGに負けていません。と言うよりも平均的には上回っているでしょう。又、UHLGの性能、安定性が向上してみんな良く飛びます。その中でも新潟勢・細海、長井選手の上達振りは見事です。高度も本物で1流(No.1と言いたいのですが、後1歩か)です。UHLGベテランの吉敷、春山、斎藤選手は無論、元祖・石井満選手も決まってきて凄い音を立ててロングスパンUHLGが上昇します。相当飛ばし込んでいる戸谷選手、三田選手も転向して数機機体を揃えてセッセと練習。吉野選手もすっかりUHLGしています。迷える相沢会長は行ったり来たり。

見ているとUHLGの上昇にも2つのパターンがある事がわかります。V尾翼タイプの旋回上昇とスタンダードタイプの垂直上昇のコロリ返りです。高度はどちらもドッコイです。野球投げでは、吉田、井村、池田、菅野選手が頑張っています。新進の寺田選手オズオズと投げていましたが、それではランチャーズでは生きて行けないぞ！又、へなへなしているようで高度を取るのが川口選手、若さかな、羨ましい・・・。

さて、全体の記録ぐわいですが、今回ももの凄く、ビリの平岩選手を入れての平均値は254秒/人、彼を外して計算すると262秒にもなります。いくら大宮たんぼの気象条件が良いと言っても、この値は機体性能の向上が強力に後押ししています。今回の大会ではUHLGが22人中12人と過半を占めていて、これが記録を押し上げている要因と考えます。

HLG10月記録 10月17日 大宮たんぼ 晴れ 23C 北東・南東1~3m/S **60秒MAX**

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R1	合計	F1	F2	F3	総計	
1	吉野	53	60	60	60	60	60					300	90	24	41	455	U
2	池田	37	28	43	46	60	60	29	60	60	60	300	90	24	38	452	
3	細海	31	36	60	43	60	53	60	60	40	60	300	82			382	U
4	春山	54	41	60	60	59	44	60	60	43	60	300	69/60			369	U
5	吉田	47	60	60	44	59	60	32	44	60	56	299				299	
6	井村	49	36	43	60	48	60	54	60	60	47	294				294	
7	長井	60	39	49	40	60	48	60	48	60	53	293				293	U
8	菅野	18	43	60	60	33	25	24	60	24	60	283				283	
9	大八木	47	55	44	16	45	60	58	29	50	58	281				281	
10	三田	60	30	60	32	30	33	37	40	56	58	274				274	U
11	吉敷	60	60	40	39	50	53	32	47	39	21	270				270	U
12	斎藤パ	31	38	29	30	38	55	52	34	57	60	262				262	U
13	石井満	60	6	52	9	41	18	29	45	58	35	256				256	U
14	相澤	60	28	45	60	44	43	28	30	8	8	252				252	U
14	寺田	15	35	60	56	27	60	26	23	41	28	252				252	
16	平尾	18	22	60	38	30	20	46	28	60	38	242				242	U
17	久保	30	48	27	60	31	60	21	28	36	36	240				240	
18	宮辺	8	5	53	32	33	32	50	54	13	39	229				229	
19	小林	60	30	40	40	41	31	33	33	26	18	214				214	U
20	川口	28	29	53	14	37	27	39	21	34	38	201				201	
21	戸谷	60	21	23	12	22	28	39	22	21	30	180				180	U
22	平岩	25	31	14								70				70	

注: UはUHLGを示す。

★10月PLG記録会報告

佐藤・平尾・・・②

台風の影響でタンボに多少ヌカルミがあったが天気もよく良いコンディションでした。優勝は上昇(打上げ)及びグライドが安定している河田さん(5MAX)でした。

2位はHLGと掛け持ちで頑張った戸谷さん(275秒)。3位もHLGと掛け持ちの川口さん(261秒)。4位は倉田さん。5位は新人ながら(記録会2回目)健闘した石引さんでした。以下省略。

追記・やや風があり回収に苦労しているようでした。しかし、風が呼吸していたので、タイミングをみてやれば問題ないレベルでした。この日の石井英夫氏は計時のみで、野次馬に徹していましたがご苦労様でした。PLGもHLGと同様に平均記録値を取ると236秒になります。パチンコの場合は今後とも、HLGの様な大きな改革点が見あたらない様に思うので、高度とその安定性が大きく関係しています。高度はゴムで決まり、返りの安定性はパターン制御の方法、システムの比重が大きいので、少し

は改良点が残っているのかも知れませんが、大きな変革は無いでしょう。

PLG 10月記録 10月17日 大宮田んぼ 晴れ23°C、北東・南東1~3m/S 60秒MAX

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R1	合計	F1	F2	F3	総計
1	河田	52	60	22	43	60	60	60	28	60		300				300
2	戸谷	60	52	24	60	39	37	41	43	60		275				275
3	川口	26	13	60	41	52	26	48	60			261				261
4	倉田	55	34	23	23	52	43	24	60	35	48	258				258
5	石引	40	47	51	50	27	43	39	38	48	59	255				255
6	西原	17	60	48	60	5	6	19	6	32	3	219				219
7	佐藤	28	6	29	23	41	30	8	21	43	56	199				199
8	乙川	29	32	60								121				121

◆2004年11月記録会の結果(HLG/CLG)

★ 11月PLG記録会報告

佐藤・・・④

ミニ国際級と同時開催となった大会でした。天気もよく最高のコンディションでした。久しぶりに3人のフライオフとなりましたが、前回に続いて長老の内山さんが300秒+90秒で優勝(2回連続)。2位は久しぶりにフライオフに残った乙川さん(300秒+54秒)。3位は常勝の河田さん(300秒+48秒)。4位はHLGと掛け持ちで頑張った戸谷さん(296秒)。5位はミニ国際級と掛け持ちの出口さん。6位は成長”株”の石引さんでした。7位は初参加で健闘した篠原さんでした。メーカーはHLGの石井満さんのお嬢さんでした。

PLG 11月記録 11月21日 大宮田んぼ 晴れ、16°C ~北西1~3m/S、60秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	内山	60	56	49	40	60	60	36	60	60		300	90		390	
2	乙川	60	60	60	37	60	43	60				300	54		354	
3	河田	44	60	60	60	60	60					300	48		348	
4	戸谷	52	60	34	39	60	55	46	60	56	60	296			296	
5	出口	41	60	60	52	28	33	41	60	35	56	288			288	
6	石引	37	40	60	45	60	60	48	42	45	23	273			273	
7	篠原	4	11	41	37	19	60	30	26	54	42	234			234	
8	佐藤	11	50	4	23	43	28	16	29	34	29	185			185	
9	石井あ	17	27	18	27	4	4	18	15	12	8	107			107	

★ 11月HLG記録会報告

1. 相沢、2. 平尾・・・③

日本模型航空連盟の小型国際級+HLG競技会と同時開催、掛け持ち参加可としたこともあって前代未聞?の大勢さん、33名参加となりました。

飛ばす機体や投げ方も紙飛行機、オーバースロー、アンダースローと様々でした。優勝の小川さんはいつも上位に顔を出しているのですが、今回が初優勝とは思いませんでした。やっと、優勝出来たと、とても喜んでいました。おめでとうございます。

名古屋から参加の噂の伊東さんの投げに注目が集まりました。惜しくも5MAXは逃しましたが、噂通りの投げ上げで大いに盛り上げていただきました。4名のフライオフはラジコンアンダースローで鍛えた、群馬の下田さんが頑張りました。優勝への手ごたえを感じていると思います。

ランチャーズの記録会でははやアンダースローHLGが標準機です。模型航空連盟の国内級HLG規格スパン900mm以下、重量80g以下という規格では、規格ぎりぎりの機体のアンダースロー機で勝負する以外勝目はほとんど無いでしょう。CHIBITA-GOクラスの小型軽量は対等か、オーバ

ーハンドがやや有利かといった感じです。アンダースローHLGが良くここまで育ったものだと驚いています。今後どのように発展していくのか楽しみに見つめたいと思います(相沢)

ジュニア競技会はラウンド制、記録会はまとめ投げ自由で開始。競技は別々にやるので、両方に参加した選手は合計4投するので、バテて全部こなせなかった選手も出ました。でも大勢が参加する競技会は楽しい物です。私はライダーと掛け持ちでこれ又忙しい。この日は老いも若きも良い記録が出なければおかしい程の好気象条件でした。

さて、記憶の残った選手の幾つか。フライオフに残った石山、菅野両選手は滅び行く野球投げHLGです。これを見るとまだ野球投げも捨てた物では無い。しかし、野球投げでガンバル選手にもふたとおりあって、本気で「野球投げ」を続けようと言う人と、アンダースロー機を持っていなくて泣く泣く続けているグングシ組があるようです。はっきりせーや・・・。関東のO選手は、名古屋の伊東選手を手込めにしてUHLGを一機手に入れました。悪い奴。しかし、あつという間に1回転投げを取得したのは立派、高度もたちまち1流でした。あーあ。

今年のHLG界の変化はもの凄く、UHLGが過半を占めるようになりました。肩に負担がないので、投げても投げても平気ですし、それよりもまず高度が違います。弱者が強者になってしまうのですから、ウハウハで節操など糞食らえと転向してしまいます。現在の日本はUHLGの技術では多分世界一でしょう。記録を見てもコンスタントに250秒が出るので、性能は完全に1ランクアップしたと言えるでしょう。残るテーマは、紙のHLGで誰が成功するかでしょう。紙の翼端投げが成功すると、紙飛行機的设计まで変わるでしょうから、これ又、泡食う人もいるでしょうし・・・。

HLG11月記録 11月21日 大宮田んぼ 晴れ、16° ~北西1~3m/S、60秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	小川	25	34	60	36	60	35	60	60	60		300	97	33	397	U
2	石山	60	45	60	60	33	60	60				300	53	67	367	
3	下田	60	29	60	60	60	44	60				300	56	35	356	U
4	菅野	55	36	44	53	60	60	37	60	60	60	300	46	5	346	
5	平尾	60	60	18	56	25	60	55	51	60	35	296			296	U
6	寺田	40	60	60	60	52	37	53	41	31	60	293			293	
7	細海	50		60		60		60		60		290			290	U
8	長井	60		49		60		60		60		289			289	U
9	春山	57	60	40	49	60	50	60	51			288			288	U
10	伊東	47		60		60		60		60		287			287	U
11	大八木	45	52	40	60	51	50	53	54	60	59	286			286	
12	野中	54	37	35	58	53	45	42	47	57	58	280			280	
13	吉野	39	60	60	30	32	47	47	0	39	60	274			274	U
14	井村	60		60		60		51		39		270			270	
15	吉田	41	43	60	60	14	34	38	60	46		269			269	
16	石井満	60	36	36	42	60	25	15	7	52	51	265			265	U
17	富塚	60	25	19	38	44	60	29	51	38	41	256			256	
18	三田	52		35		60		60		48		255			255	U
19	池田	24		60		60		60		39		243			243	
19	星野	42	54	43	15	34	60	24	39	44	19	243			243	
21	斎藤	43	43	32	32	34	43	53	60	29	34	242			242	U
22	平岩	49		60		60		45		21		235			235	
23	三俣	33	26	48	33	23	34	37	49	60	17	228			228	
24	本田	43		36		60		60		26		225			225	
25	平林助	33	4	28	26	34	27	28	60	23	58	213			213	
26	川口	29	28	28	16	35	36	38	9	43	60	212			212	

27	龍田	37		51		33		51		35		207		207	
28	相澤	35	60	30	40	14	1	14				179		179	U
29	林	36	34	35	22	23	35	28	8	38	14	178		178	
30	佐藤	38		26		40		32		27		163		163	
31	戸谷	18	15	31	16	29	11	18	17	23	33	134		134	U
32	盛合	26		16		38		20		28		128		128	
33	平林幸	19		18		22		7		38		104		104	

◆ 2003年フリーフライト日本選手権競技会報告

平尾・・・⑤

平成16年10月29、30、31日、千葉県干潟町万才田んぼにおいて、FF日本選手権競技会が開催されました。29日金曜日は練習日と受付、事前打合せ、30日F1AとCの競技、31日F1B競技、そして天候不順の為、表彰式が31日午前と午後の2回に分けてありました。

今年は29日は天候が良く練習が出来ましたが、競技日はいずれも天候不順で本部は悩みっぱなしの競技会となりました。今年の参加者も50名と多く和気藹々、親好を暖めていました。気象は唐突に崩れて、30日は午後雨でF1Aは7ラウンドまで頑張り、F1Cは5ラウンドで打ち切り、31日のF1Bは早朝から雨で12時から2ラウンドのみの競技となりました。

◇F1A競技

今回もこの競技は遠目の観察でした。この種目の参加者は昨年と同じ12名、内、関西からが5名、年齢的には多少若返っています。この日は顕著なサーマルは無く全員苦戦した模様。

但し、昨年よりは環境は良かったようで、泥だらけの人はいませんでした。この日は高台方向からの北東の風2-4mでグライダーにはほどほど。この場所の特色である境界層が、グライダーの離脱高度の地上50m付近にあったようで苦労した様です。

今回の記録によって、アルゼンチン行きの切符が手にはいるかどうか掛かっている人もいて、思惑と結果が連動せず終わってからヤキモキ。アルゼンチンは遠から行けるんでないの。こんな機会でもないと行けないし・・・。

第1ラウンドの4分のスーパーマックス通過は11人中3人のみ、発航場所が田んぼなので足場の悪いのが影響しているのでしょうか。結局オールマックスは優勝した村上選手1人のみ(本人も予想外か?)で初優勝でした。2位は若手に入る白井選手、3位はしぶとく宮本選手、4位に高橋選手と関西勢が続いて、5位によく関東の三留選手、6位はまたまた関西の鷺見選手と関東はコケにされていました。ニギヤカシに來たと言っていた熊井選手が7位、ランチャーズのホシ?平岩選手が8位、期待していた土肥、和田両選手は9、10位とアカン。櫛引選手は出だし悪かったものの次第に調子を上げて・・・、しかし、機体が壊れての最終回、バルサ機が言う事を聞かず痛恨の21秒で11位。期待の新人・山本選手は残念ながら足の肉離れで棄権、一生懸命練習していたのに残念でした。

発航は良いものの川縁に着地で壊れたり、やろうと思っても出来ない電線上に降りて注目をあびたりとグライダーはなかなかやる。全体から見ると数の少ない関西勢に上位を独占されて、関東勢は無然たる表情。機体の性能差との意見と、練習の真剣さ不足との自己反省がありました。これからは小生・グライダーの鬼となって関東勢をシゴク覚悟です、よろしく。

◇F1B競技

申込者は27名と昨年と同じ。早朝から雨でスタートは12時からとなりました。地面はほぼ水田と池の有様で、2ラウンドの競技なので最短で日本選手権者になるチャンスと考える人と、地面を見てガックリ組(ホンの少数か)に別れて競技開始。

雨上がり後は急速に回復して青空が見え、条件は良化して1、2ラウンドを5分マックスとして競技実施。最近のF1Bの取得高度は素晴らしいものですが、5分マックスとなるともう一つ高度が欲しいところ。さすがに5分マックスは厳しく第1ラウンドは10人、第2ラウンドは8名となりフライオフに残ったのは4名のみと主催者としては上出来の競技となりました。今回の結果を見ると、今の30gゴムによるF1Bは5分マックスは結構きつい事が解ります。関東は津田選手のみがフライオフに進み、他のAクラスが全滅。ガンガン上がるサーマルはほんのわずかで、5分近くいくもののギリギリで地上近まで降りる機体が大部分で視界も悪く、苦戦の連続でした。

7分フライオフは1人もマックスは無かったものの中部の伊藤長老が5分近くを飛ばして優勝、昨年と同様70才を超えないと優勝出来ない？ 若い(60才以上を言う)のはアカンね・・・。

2位に同じく中部の西沢選手、3位も中部の白井選手と中田選手は外れたものの中部勢が完勝。4位に実力を付けてきた関東の津田選手が入り、以下デサミスの岩田、チョイ落ちの梅原両選手が続いて辛うじて関東の面目を保ったところろ。優しくなった中田選手は7位と一時のすごさは何処に行ったのか。完成に近づいた可変ダイヤペラの宇津選手が10位と健闘しました。その他のそうそうたる選手が下位に低迷したのは、心のせい、環境のせい、はたまた技術の差か。後日談ですが、さすがに悔しかったらしく関東勢はそろって翌週(11月7日)からF1Bの練習(反省と機体の調子を確認か?)に励んでいました。反省だけなら猿でもできる・・・。

私が感じるのは、大宮田んぼは環境が良すぎる(余所では上がらない飛行機も飛んでしまう恐ろしい場所)と言う認識が甘いようです。大宮でやるなら下降気流をねらって練習をするのが正しいやり方です。ガンガン頭を上げる上昇は特に要注意です。

さて、そこで数字で見てみましょう。第1ラウンドのMAX率は42%、第2ラウンドは33%と読んでいます。これらの中で3分以下を拾ってみると第1ラウンドでは3名で13%、第2ラウンドでは2名8%の値で、これはでデサーマルと考えてよいでしょう。

全体の値を検討すると、いずれも軽いサーマルと軽いデサーマルで5分取れた選手と取れなかった選手に別れたと考えます。この日の気象を読むのはなかなか難しく、サーミスターや温度計では読めません。他機の飛びくわいを見て、良ければさっと発航するのがベストですが、これは外人は得意ですが日本人は苦手の様です。又、この日は時間帯によって、同じ位置で飛ぶ飛ばないが上下に別れたり、わずかな場所の違いで時間差が出たようです。

注: 軽いとは+5cm~10cmの気流を言う。F1Bの沈下率を30~35cm/秒とすると、90mの高度を取った場合の滞空性能は297~340秒(上昇時間を40秒として)となります。この場合-5cmのデサーマルがあったとすると265~297秒となり5分飛びません。この事はHLGを飛ばしていると、ママ観察出来ます。私は、良く飛ぶ時は飛行場部分全体が+5cmの状態、空気が動き出した時(午前10時以降)は全体的に-5cmの状態と考えています。それをスポットのサーマル、デサーマルで空気を補填していると考えます。練習をやってもやっても飛ばない飛行場は何処かないかな・・・。

◇F1C 競技

発航場所は両側はビチャビチャの田んぼのあぜ道、エンジン機の場合は場所が狭くても良いので助かります。気象条件は悪くはなかったが、薄曇りで視界が悪く辛うじて5分飛ばせる状態でスタート。各選手共いずれも1番機はカーボン主翼の機体で、ギャモデルとスタンダードがあったが、エンジンの回りぐわいで高度の差は少ないように思えた。それよりも練習の多少で飛びぐわいが違うようだ。この日は湿っていたのでエンジンの懸かりは良くないが、各選手結構な高度を取って5分スーパーマックス通過は6名/9名と性能に余裕があるのが解る。

飛ばす回数が増えるごとに脱落者が出るのは競技の常、それでも70%の選手が残った段階で雨が降り始め、視界の関係で5ラウンド打ち切りとしてフライオフとなった。

視界が悪いので5分マックスのフライオフ。5人残った選手が発航したが1番機が使えた人、機体調整が今一の差が出てマックスは金川選手1人のみで決着。2位の田久保選手は遠くに飛んだが条件が良ければ見えたのに方向が悪く計時近く物陰での視界没となり気の毒でした。関沢選手は1番機が水没、2番機がピッチングに入り3位。4位の2人はいずれもオーバーランで脱落。薄井選手は練習無しの割には上々。伊藤選手は機体のご機嫌を取りながら頑張って5ラウンドを飛ばし、増田選手はトラブルで脱落。エンジン機はドジるとダメージが大きいのは気の毒でした。

◇全体では

天候不順が効いて、出だしからやる気が削がれた面があった。幾つになっても反省ばかりだが、これをチャンスと取るか、ハンデーと取るかで成績が大きく別れる。いかなる場合もチャンスはあるもので、競技は気の持ちようであろうにでもなるものだ。勝負は最後まで捨ててはいけない事を勉強させられた。さて、ランチャーズとしては、今回の成績はメンバーでは優勝は無し、2位が1人、他はそこそこの成績でした。しかし、陰に回っては競技委員長を吉田さん、役員を相沢さんがやって貢献してくれました。今回の選手権は気象条件の割に大成功と言って良く、参加選手それぞれ納

得して帰ったことと思います。

2004年FF日本選手権競技会記録（開催日・04年10月29、30、31日）

F1A（1ラウンド5分スーパーMAX、2～7ラウンド3分MAX）

No	氏名	R1	SM	R2	R3	R4	R5	R6	R7	F1	F2	合計
1	村上 善信	180	0	180	180	180	180	180	180			1260
2	白井 庄二	180	0	180	180	178	180	180	180			1258
3	宮本 茂樹	180	0	180	160	180	180	178	180			1238
4	高橋 浪男	180	0	180	146	180	180	180	180			1226
5	三留益良男	180	0	180	180	180	177	161	163			1221
6	鷺見 健次	134	0	180	180	135	180	180	180			1169
7	熊井 恒雄	180	0	180	180	180	82	180	180			1162
8	平岩 保	180	0	180	156	112	180	180	157			1145
9	土肥 英幸	175	0	110	80	180	180	180	180			1085
10	和田 光信	180	0	180	112	0	180	180	180			1012
11	櫛引 敬司	93	0	119	174	177	136	178	21			898
12	山本 修	0	0	0	0	0	0	0	0			0

F1B（1、2ラウンド共5分MAX、フライオフも5分MAX）

No	氏名	R1	R2	F1								合計
1	伊藤 勝	300	300	289								889
2	西沢 実	300	300	221								821
3	白井 正巳	300	300	194								794
4	津田 晃英	300	300	159								759
5	岩田 光夫	300	297									597
6	梅原 義則	285	300									585
7	中田 光恭	300	280									580
8	井澤 正男	279	300									579
9	石川 保則	243	300									543
10	宇津 秀夫	252	282									534
11	坂巻 敏雄	288	231									519
12	新谷 誠吾	217	300									517
13	吉田 潤	300	212									512
14	前田 喬	300	206									506
15	小堀 三夫	300	190									490
16	今村 利勝	214	270									484
17	出口 東生	189	285									474
18	織間 政美	196	266									462
19	田岡 真	241	188									429
20	倉田 泰蔵	300	115									415
20	小池 勝	190	225									415
22	勝山 疆	161	191									352
23	菅原 隆郎	177	150									327
24	浅沼 資司	154	104									258
26	平尾 寿康	123	0									123
27	大塚 恵司	65	10									75

28	竹鼻 幸一											0
----	-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

F 1 C (1 ~5 ラウンドは3 分MAX、フライオフは5 分MAX)

No	氏 名	R1	SM	R2	R3	R4	R5	R6	R7	F1	F2	合計
1	金川 茂	180	120	180	180	180	180			300		1320
2	田久保潤一	180	120	180	180	180	180			274		1294
3	関沢 一雅	180	120	180	180	180	180			185		1205
4	江連 明夫	180	120	180	180	180	180			0		1020
5	吉川 強	180	120	180	180	180	180			0		1020
6	小林 正樹	180	59	180	180	180	180					959
7	薄井 弘安	180	0	177	180	0	180					717
8	伊藤 俊介	152	0	0	180	146	180					658
9	増田 哲司	180	0	0	0	0	0					180

◆ **2003年フリーフライトF1G、F1H、F1J、HLG競技会報告 平尾・・・⑥**

今年最後のFF委員会後援の競技会が11月21日大宮田んぼで開催されました。最高の天候で11月末と言うのに暑いくらいの1日でした。本大会では、はじまって以来の多数の参加者で熱気むんむんの大会。ゴム13名、グライダー10名、エンジン8名、HLG23名、計55名と、はじめて参加者が50名を超えました。

◇**F1G・ゴム動力機**

性能に余裕があるはずのF1Gですが、初回の3分マックスを達成したのは14人中たったの5人で今回は以外と少なかった。5ラウンド終了時に残ったオールマックス選手は2名だけでも意外でした。しかし、初回2分は10人がクリアーしています。この日は穏やかな気象条件でしたが、サーマルは余り無く静気流的な一日でした。

見てなかったのが競技の詳細は解りませんが、順位を見ると、上位をカーボン機がしめて大波乱は無かった模様。しかし、バルサ機でも練習をみっちりやればまだまだ勝てるはずです。

普段の大宮見ていると、バルサ機は気が引けるのかカーボン機を持つ選手の方がよく練習をしている様に思う。F1Gは機体としては行き着く所まで来ているようで、今後は気合いの勝負になりそうです。最近ではF1Bと同様に購入機もあるようで、自作機よガンバレと言いたい。

成績では本命の坂巻、島崎両選手はしっかりと残って、フライオフとなり、高度では負けたものの滑空でしっかり粘った島崎選手の勝ち、高度を取ったが坂巻選手が2位となりました。3位は初回ピッチングでこけた出口選手、ブツブツとぼやいてました。4位は良く練習している渡辺選手、これ又、初回で脱落の組。5位は中部で優勝してきた松尾選手、ドジョウは逃げた。6位鈴木選手、ここまでは練習熱心です。7位辺りからバルサ機が増えて来ますが、後は練習ですね・・・。この種目はまだバルサ機が半分は残っています。ゴム動力機の入門機としてバルサ機にまだまだ頑張っ欲しい。

◇**F1H・グライダー競技**

この日は微風、しかし適度に風があってサークリングもしやすく、グライダーには好条件でした。

滑空性能+サーマル読みでの戦いで体力と言うシバリがあって簡単ではない。しかも、この日の大宮田んぼは前夜の雨でビチャビチャ、発航場所が限られて苦戦の連続でした。又、大きなサーマルが無く、ピグギーバックや一発離脱の作戦も巧くいきませんでした。

昭和一けたの石井英夫選手は、サークリング中2度も索をふんずけ、機体が離脱していまい悔しがっていました。一発離脱の櫛引選手はサーマルの女神に嫌われてサッパリ。名人・小堀選手は初回は大成功の一発離脱が2ラウンド以降うまくいかず慥然(奥さんは悪くない)。

優勝候補の1人・和田選手は機体の調整未了と、勘違いによる0秒があって脱落。横浜の吉田選手と宮辺両選手は飛行機がもう一つ言う事を聞かず0ラウンドが1つずつ、残念でした。土肥選手は1ラウンドで腰をギクッとやって、65才以上の競技者と同等の体力に合わせてくれる親切心は

立派、しかし、優勝は譲らずそこは可愛くなかった。病癒えた吉岡選手、第1ラウンドは3分クリアは良かったが、チョコマカと記録を落としても3位と粘った。平尾はすぐあきらめる悪い癖を出さないで、2位に手が届きました。

今回はカーボン機が6機、内バント機が4機、残りはバルサ機でした。強度ではカーボンが断然有利で、まず離脱時の高度が違います。しかしまだ曳航技術でカバー出来る範囲です。だが技術が追いついてくると、当然ながら頑丈で高度を取る機体が勝つのが当然です。しかし競技は水物、今後どのようなようになるかが楽しみです。

◇F1J・エンジン機

エンジン音がすさまじく上昇高度も凄い。その分、墜落する音も又、痛い、痛いですごい。それがこの日は2機もあって、お金も痛い。見ている方もイタタ……。

優勝は、フライオフでは3分出なかったものの最近何となく勝てなかった江連選手、心を入れ替えたかな。2位は今年の優勝者本永選手、大会の時しか出てきませんが、しぶとい。3位は国際級ジュニアのみエンジン機を飛ばす津田選手、練習のたまものか。4位は珍しく熊谷選手、来年はやるかな。関沢選手、F1Cは強いのにこの種目はさえないで5位。関西から遠出の宮本選手は、交通費が稼げず無念の6位、以下は墜落した痛い痛い選手でした。。

◇HLG

今年は天候最高、それに初めて紙の選手を誘惑しての大会で参加者23名とお祭り騒ぎ。今回初めて北海道、東北、、新潟、名古屋と遠方からの参加者があり、HLGの本拠地・大宮田んぼは熱気でもえました。今回の特色は、紙HLGの参加です。

これにランチャーズ記録会も同時開催で大混乱でした。ランチャーズメンバーはただでも騒がしいのに、他の競技ではあり得ない事が起こる。59秒のタイムが出ると選手は60秒の筈とガンバルし、計った方は「出てない、でていない」と時計を見せて喧嘩騒ぎ。計時係は偉いんだよ。HLGやる人は、まず人間を作らにゃ……。

最近「翼端投げ」が増えたので、発航場所が広くないと危ない。その為に相当広く取ったのだが、発航する時はそれでも「どいて、どいて」と騒がしい。まー、楽しければ良いんだけど。

さて、競技の方は、中部の怪物・伊東選手を迎えてムラムラした探り合ひ的な雰囲気の中、投げ方や高度の観察をしばし。伊東選手は新しく出来たHLGのシバリの性で、まえほど高度が出ない。これは面白くないし、やはりシバリは良くないな……。UHLGでは野球投げの最高高度が簡単にるので、このところ高度の誘惑に負けてUHLG転向組多数。

優勝は本命の春山選手、年齢を物ともせず300秒は立派でした、つおい。2位は好調の細海選手、初のトロフィー。3位の長井選手と2つのトロフィーを新潟に持って行かれました。

4位はラジコンでの実績を生かして翼端投げが完成し好調の下田選手、いずれは優勝するでしょう。5位は中部の怪物・伊東選手、関東の毒気にあてられたのか、はたまた、新作の機体の調整未了か。6位から紙の選手が出てきた、と言ってもランチャーズの石山選手、7位も紙を飛ばした井村選手と素晴らしい記録でバルサ機との差は無い。今回初めて紙のHLGをじっくりと見たが、あの難しい紙機を高度といい性能といい立派な物、でも難しいのでやる気はしないが……。この後が吉田、三田選手とランチャーズの常連が続く、12位にやっと元祖・石井満選手、練習していたのにな……。うるさい平岩選手が13位。14位に相沢会長、この日は多忙だもんね……。

これ以降はランチャーズと紙飛行機が入り乱れての順位でした。これで見ると紙飛行機は巧くなると250秒以上になるが、そこまで行かないと200秒が出にくいのかも。又、バルサ機は下手でもほどほど(200秒前後?)の性能が出るようです。

その他

FF委員会も今後は新人獲得に注力するようで、この競技会にも力を入れるようです。今大会は開催時期や場所から言っても、宣伝すれば人が集まりやすい大会だと思います。滅び行くFF救済の為に、本気で「新人さらい」に力を入れなければ死人の山になる。

役員の皆様、ご苦労様でした。みんなを楽しく遊ばせるのも疲れるものです。しかし、それはそれで、満足感があるものでして趣味としては良い方でしょう。夢でしょうが大宮田んぼに美女軍団が大挙して

押し寄せて、飛行機を持って逃げまわりたいものですね・・・・・・・・・・。

F 1 G

順位	氏名	R1	S M	R 2	R 3	R 4	R 5	小計	Fo1	Fo2	合計
1	嶋崎和利	120	60	120	120	120	120	600	195		795
2	坂巻敏雄	120	60	120	120	120	120	600	120		720
3	出口東生	120	46	120	120	120	120	600			600
4	渡辺了敏	120	14	120	120	120	120	600			600
5	松尾哲朗	120	60	120	120	109	120	589			589
6	鈴木深志	103	60	120	107	120	120	587			587
7	海老原清	120	10	120	120	120	102	582			582
8	勝山 彊	120	39	115	98	120	120	573			573
9	中野 紀	120	0	120	84	102	120	546			546
10	小林 茂	120	60	98	101	77	120	516			516
11	竹鼻幸一	4		120	47	120	120	411			411
12	大塚恵司	7 8		81	69	28	73	329			329
13	藤川芳男	5 2		51	75	52	82	312			312
14	大桃 隆	0		8	90	76	106	280			280

F 1 H

No.	氏名	R1	S M	R 2	R 3	R4	R 5	小計	Fo1	Fo2	合計
1	土肥英幸	120	60	120	120	120	120	600			600
2	平尾寿康	119	0	104	120	120	110	573			573
3	吉岡靖夫	120	60	120	112	89	120	561			561
4	石井英夫	120	41	120	120	93	73	526			526
5	和田光信	120	60	120	120	0	120	480			480
6	吉田勝海	120	60	120	120	0	100	460			460
7	宮辺康治	0	0	98	120	99	90	407			407
8	櫛引敬司	21	0	55	82	50	120	328			328
9	岩田光夫	120	33	0	56	120	0	296			296
10	小堀三夫	120	6	1	96	17	56	290			290

F 1 J

No.	氏名	R1	S M	R 2	R 3	R 4	R 5	小計	Fo1	Fo2	合計
1	江連明夫	120	60	120	120	120	120	600	169		769
2	本永 昇	120	60	120	120	120	120	600	163		763
3	津田晃英	120	60	120	120	120	120	600	156		756
4	熊谷克己	120	60	120	120	120	120	600	92		692
5	関沢一雅	120	60	120	120	120	120	600	85		685
6	宮本茂樹	120	38	120	120	120	120	600			600
7	谷塚正実	120		103	120	0	0	343			343
8	田久保潤一	7 7		0	0	0	0	77			77

HL G

順位	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	SM	Fo1	Fo2	合計	参考
1	春山清夫	60	60	60	60	60				300	UHLG
2	細海 修	50	60	60	60	60				290	UHLG
3	長井道雄	60	49	60	60	60				289	UHLG
4	下田多門	60	52	50	60	36				282	UHLG

5	伊東哲男	41	60	60	60	60					281	UHLG
6	石山芳彦	35	60	60	58	60					273	紙
7	井村真三	60	60	60	51	39					270	紙
8	三田裕一	52	35	60	60	48					255	紙
9	斉藤勝夫	44	29	60	60	60					253	UHLG
10	池田 昇	24	60	60	60	39					243	HLG
11	吉田利徳	37	34	60	60	47					238	紙
12	石井 満	44	53	36	60	43					236	UHLG
13	平岩 保	49	60	60	45	21					235	HLG
14	相沢泰男	50	50	46	55	25					226	UHLG
15	菅野俊行	40	40	34	60	41					215	紙
15	大八木重伸	39	40	36	60	40					215	HLG
17	龍田義樹	37	51	33	51	35					207	紙
18	佐藤富二男	38	26	40	32	27					163	紙
19	寺田浩朋	35	19	12	50	33					149	紙
20	盛合建樹	26	16	38	20	28					128	紙
21	平林久之助	17	24	20	26	31					118	紙
22	平林久幸	19	18	22	7	38					104	紙

お知らせ

● 04年初飛し会

⑦

1. 主 催 東京選手会
2. 競技種目 飲んで話合い競技会・飛行機は飛ばない
3. 開催日時 2004年1月2日(日) 午前7時～午後3時
4. 開催場所 埼玉県大宮田んぼ
5. 催し物 競技はありません。飛ばさなくてもかまいませんが、好きな機体を適当に飛ばすのは自由です。この日は選手会鍋があります。食べ放題ですが量に限りがあるので程々で遠慮してください。費用は選手会持ちです。

● 04年湘南大会の案内

⑧

1. 主 催 湘南倶楽部
2. 競技種目 フリーフライト・HLG、F1G、F1H、F1J、G、R、E、A級ライトプレーン
3. 開催日時 2004年1月9日(日) 7.30より受付、8時競技開始、11.30終了
4. 開催場所 埼玉県大宮田んぼ
6. 参加費 当日現地にて-1種目 2,000円
7. 申込み 当日。湘南倶楽部事務局
8. 申込期限 当日受付
9. その他 詳細については、湘南倶楽部事務局(TEL0463-33-0248)三留さんにお問い合わせください。インターネットホームページ・「ランチャーズ」参照。
10. 追加事項 櫛引さんの勝手な「暗闇鍋」があります。鍋銭必要。

● 04年寒中杯の案内

⑨

1. 主 催 代々木スカイフレンズ
2. 競技種目 フリーフライト F1G、F1H、F1J、HLG、ライトプレーン、
3. 開催日時 2004年2月6日(日)

4. 開催場所 埼玉県大宮田んぼ
 6. 参加費 選手-3, 000円
 7. 申込み 代々木スカイフレンズ事務局
 8. 申込期限 当日受付
 9. その他 詳細については、代々木スカイフレンズ事務局にお問い合わせください。
 インターネットホームページ・「ランチャーズ」をご参照ください。
 10. 追加 是非見学にお出でください。

FF文化サロン

■ インドアハンドランチ・1秒でも長く飛ばす楽しみ・1 やまめ工房・石井満・・・⑦

数年前よりインドアハンドランチ (IHLG) を飛ばして楽しんでます。都内近郊の公共の体育館で数名が集って飛行会を行っています。屋外の HLG との違いは何と言ってもサーマルが無いことで、イコールコンディション (静気流) でいかに滞空時間を延ばすかという事になります。機体と人間の性能向上を図るためオリジナリティーあふれる色々な工夫が見られます。発展途上で試行錯誤しながらチャレンジできる古くて新しい最高に楽しい飛行機です。

<世界記録と日本の現状・・・これからに期待>

FAI と日本航空協会では F1N という種目名で記録を管理しています。F1N は機体の大きさ、

	天井高	世界記録	日本記録
カテゴリー1	8m未満	39.6 秒	-
カテゴリー2	8m以上 15m未満	60.4 秒	60.4 秒
カテゴリー3	15m以上 30m未満	62.8 秒	-
カテゴリー4	30m以上	83.0 秒	-

重量、材質、投げ方などには一切制約はありません (但し折畳み翼のような翼面積の変化する物は禁止、可動フラップは可)。これほど制約の無い自由な発想が試せる模型飛行機は他にありません。天井の高さで4種類にカテゴリーが分かれています。日本ではまだやる人も少なく残念ながらカテゴリー2以外では日本記録はまだありません。今後もっと盛り上げて大勢でわいわいやりながら日本記録・世界記録を塗り変えるようにレベルアップを図りたいですね。記録の詳細については FAI 及び日本航空協会の HP で見る事が出来ます。

<カテゴリーごとに異なる機体・・・部屋が飛行機だらけに>

カテゴリーの違いにより機体はまったく異なった物となります。カテゴリー1では極端に軽くスパン 60cm 程度の物を全備で 5g ~ 8g というのが主流です。逆にカテゴリー4ではドーム球場などの広い施設を使い大型の翼端投げ機を振り回す事も考えられます。

図-1 は代表的な機体 (記録機など) を翼面荷重 ~ アスペクトレシオのグラフにプロットしたものです。カテゴリーによりグラフ上の分布が大きく異なることに注目して下さい。天井の高さごとに全く異なる機体が適している事が一目で理解出来ます。

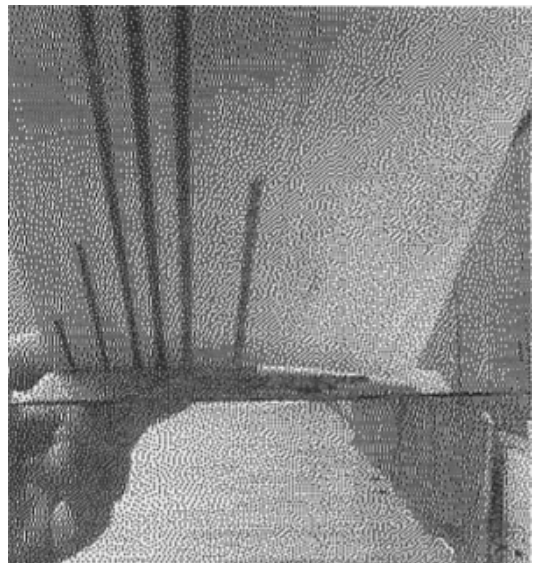
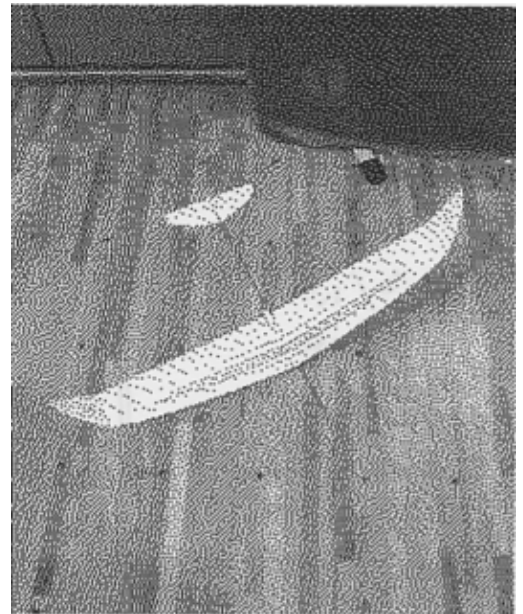
投げ上げて獲得できる高度は主に翼面荷重と初速に支配されます。翼面荷重を小さくすれば高度は出ないが沈下が少なくなり、逆に翼面荷重を上げると高度は取れるが沈下が早くなります。当然初速があるほど高度が取れるのは事実で我々の様に腕力に劣る者は大型化や高性能翼型の開発、投げ方の工夫が必要になってきます。

材質は翼がバルサソリッド、胴体がカーボンパイプというのが一般的です。より軽量化、大型化する場合はバルサリブ組みやバルサ以外の素材 (発砲スチレンなど) での製作も考えられますが、現状では外用ハンドランチと同様バルサソリッド翼がほとんどです。

<カテゴリー1(天井高8m未満)の機体・・・凄く繊細、でも壊れない機体>

高度 8mからの滑空で世界記録 40 秒以上飛ばす為には 0.2m/s 以下の沈下率で飛ばす必要があります。そのため機体は限界に近いほど軽量化された物となり、翼面荷重は 1~2g /d m² となります。スパン 60cm で重量が 6g ぐらいの超軽量級の機体です。この重さで投げに耐えられる強度、剛性を保つのは大変な事です。強度的に一番厳しいのは主翼で、重量を押さえるためもっとも厚い部分でも肉厚は 2mm 程度しかありません。機体製作面ではこのカテゴリー1 がもっとも難しいと言えます。歩くより遅く飛ぶグライダーは見た者を圧倒します。優雅で神秘的ですらあるように見えます。記録機は可動フラップ翼を使っています。主翼前縁から 50 パーセント付近から後ろは極端に肉厚の薄い構造でフラップ状にたれ下がっています。投げ時は風圧でこのフラップが上がり翼に掛かるねじり力を少なくして主翼の破壊を防止しかつ抵抗を下げて高度を稼ぎます。滑空時はフラップが下がり揚力を増加させます。可動フラップを使わない場合は翼のねじり剛性を上げる事が必要です。翼型を工夫してねじり力を少なくしたり、カーボンテープで補強したりと剛性と重量のせめぎ合いがいつも付きまっています。強度が許さざり軽く大きくというのがこのカテゴリー1 の記録を伸ばすカギとなります。今年になって本格的にこのカテゴリー1 を始めましたが、最近の練習では世界記録に並ぶ記録も出るようになってきました。近い将来記録達成が期待されます。今現在のこのカテゴリー1 の限界は 50 秒あたりだと睨んでいます。レイノルズ数が小さく最適翼型がどうなるのかまだまだ研究し尽くされていないようですので翼型の研究で性能が上がる可能性も残されています。

記録を狙うような難しい機体とは別にごく簡単な工作で作るインドアハンドランチもよく飛ばしています。自宅近くの小学校の体育館やコミュニティーセンターなどのロビーなどでも楽しめます。身近な屋内施設で天候に左右されずに楽しめるので模型飛行機の底辺拡大の為のイベントなどにも最適な飛行機です。滑空速度が小さいので安全ですし、また速度が小さいのでアライメントの許容幅も大きく少々ねじれなどがあっても重芯さえ合っていればそれなりに飛んでしまいます。私はバルサ製の胴体に 2mm 厚のスチレンペーパーの翼をセロテープで貼り付けた物をよく作ります。15 分ほどで作れてうちの小 3 の娘でもパチンコで 15 秒程度は飛ぶので簡単に「飛んだ!!」という実感が得られ子供や初心者には最適です。飛行会では女性や小学生がこんな飛行機を熱心に飛ばす場面も見られほほえましく思えます。飛行会ではハンドランチに限らずゴム動力機や紙飛行機、ピーナッツなど色々な飛行機が飛びまわっています。ぜひ一度参加して見て下さい。次回はカテゴリー2、3、4 についてお話します。(図面別添)



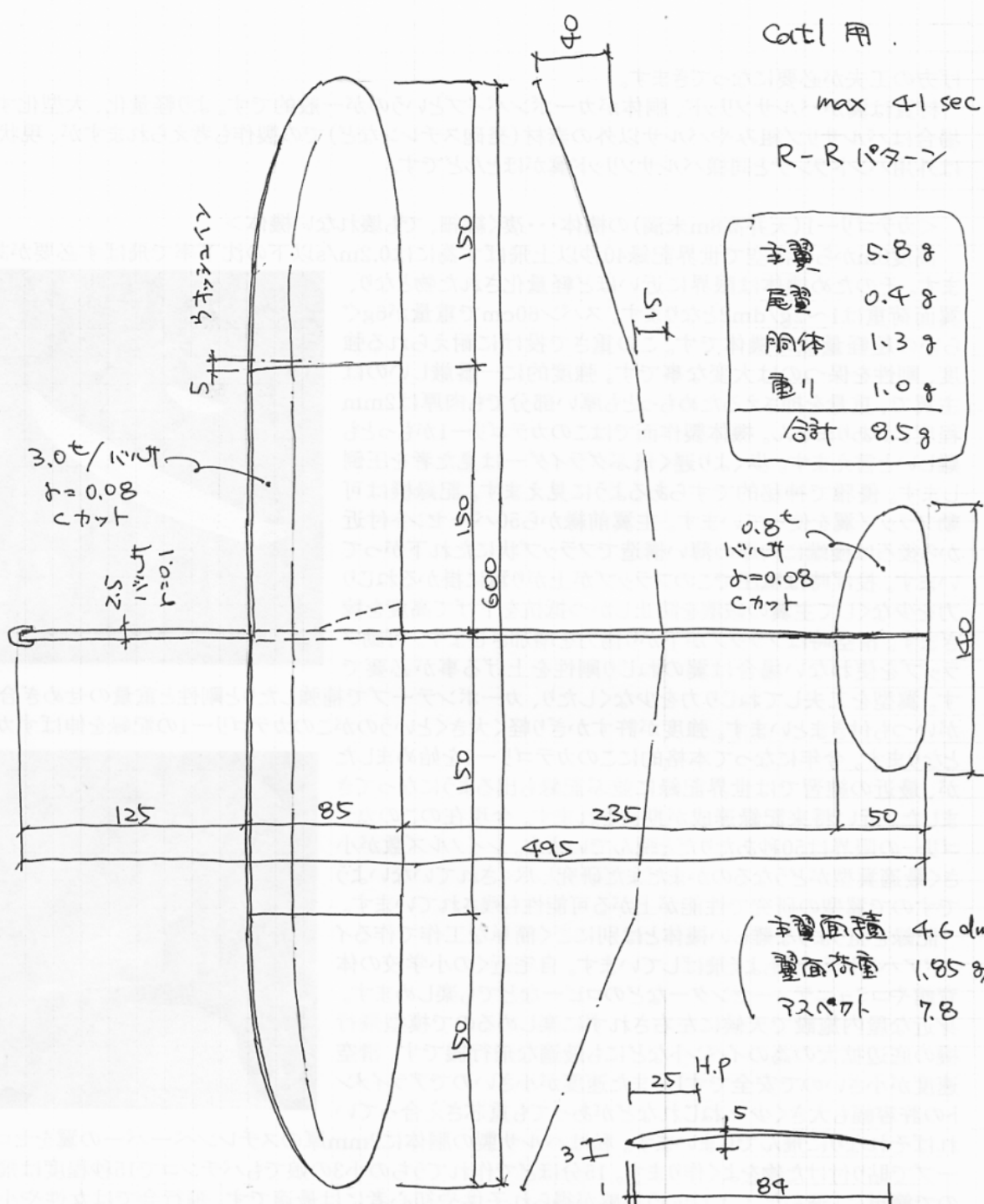
2004.11.25 70#

CatI 用 .

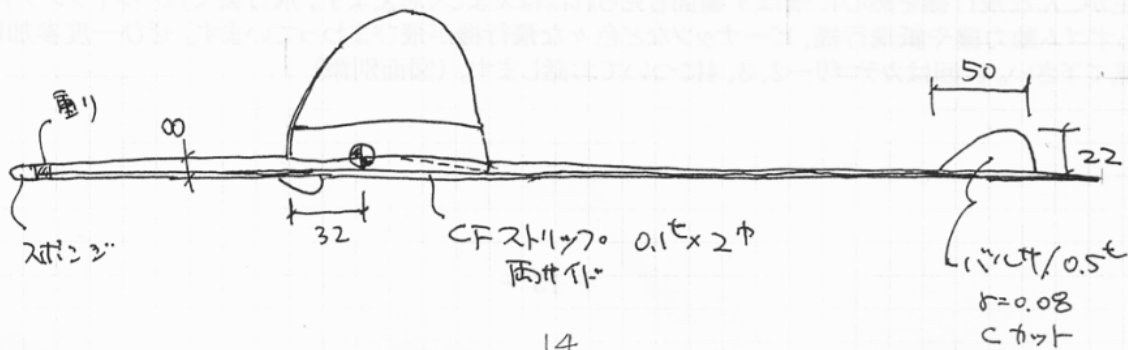
max 41 sec

R-R 1.7-7

主翼	5.8g
尾翼	0.4g
胴体	1.3g
重り	1.0g
合計	8.5g



主翼面積 4.6 dm²
 翼面荷重 1.85 g/dm²
 マスバウト 7.8



■ UHLG・伊東機「Monster」の紹介

伊東哲男・平尾・・・⑦

今年最後の締めくくりとして、本人の同意を得て伊東製UHLG「Monster」を紹介する。図面はCFFC会報よりの転載である。設計図を見ると「春山機」の影響があちこちに見え隠れするが、出来上がったUHLGを見ると伊東式である。

1. 伊東機の諸原(数値は図面よりの読取り)

展開スパン900mm、スパン828mm(図面による)、翼弦103~50mm、翼厚6%、アスペクトレシオ7.84、主翼面積8.74dm²、機体重量78g、翼面荷重9.9g/dm²、上反角15.4%。主翼、尾翼は桧、バルサ製、マイマクロクロス、カーボン補強、胴体はカーボンパイプ、パイロンアルミ金物使用。出口製デサによる重り落下式。

2. 機体の特色他

図面より勝手に読み取った考え方を以下に記した。

- ① 翼端投げで振り回して高度を稼ぐために、出来るだけ頑丈に作る。
- ② 回転速度を上げるために、規定最大のスパンとする。
- ③ 重量制限を守るために、翼弦を絞り補強もほどほどにした。
- ④ これまでより滑空重視にした。

頭部は鯛の頭のように、キョトンとカーボン胴の先端に付いている。パイロンはアルミ金物(自転車のフェンダーステー取り付け用)でそれを胴体貫通させて翼はアクリルボルト締めとする。利点としては、頑丈であり運搬時には翼と胴体がバラせる。翼の下にワッシャーを入れて向角調整が出来る。投げ出し時、頭を振る時の横抵抗が少ない、又、上昇抵抗も少ない。欠点としては、主翼ホップアップ・デサが使えない。

主翼前縁は3×5の桧削りだし。主翼の補強として上反角ジョイント部分は全て上下幅15mmのマイマクロクロス瞬間張り、及びバルサに上下方向に切り込みを入れてカーボンシートを埋込み瞬間止め。両翼端部分は上下ともマイマクロクロス瞬間張りの上オラライト張り。主翼取り付け部分は上下カーボンシート貼り付けの上、ボルト受け部分はさらに1.5mmのベニヤで補強して相当に入れ込んだ補強がしてある。

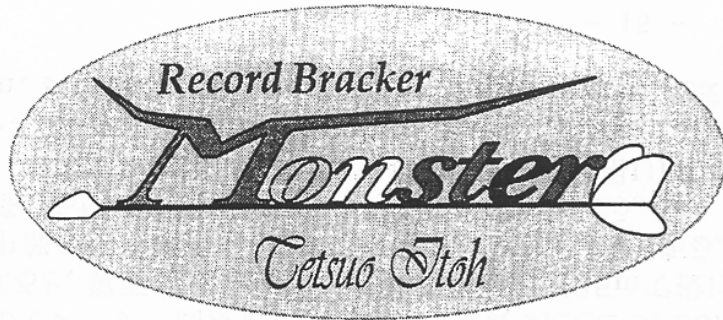
翼断面が過去の遺物「クラークY」とあるがこれは止めて欲しい。HLG翼の方が数段上昇抵抗が少なく、滑空性能もよいし作りやすい。翼前縁を尖らせて、ハイポイント後半を直線に落せば、上昇高度で2~3m余計に上がる。但し、前縁の膨らみはゲツソリ削げない様に丁寧に脹らます。

飛ばすのを見ていると、以前ほど高度を取らない。多分、重量が減って慣性が小さくなったからであろう。しかし、翼面荷重はUHLGとして最適の10g/dm²前後になっているので、浮きは良くなっている。今回の競技会ではまだ調整未了の様で、次回はさらに高度も出るし、もっと飛ぶだろう。出来上がった形は「春山機」とは全く別物である。

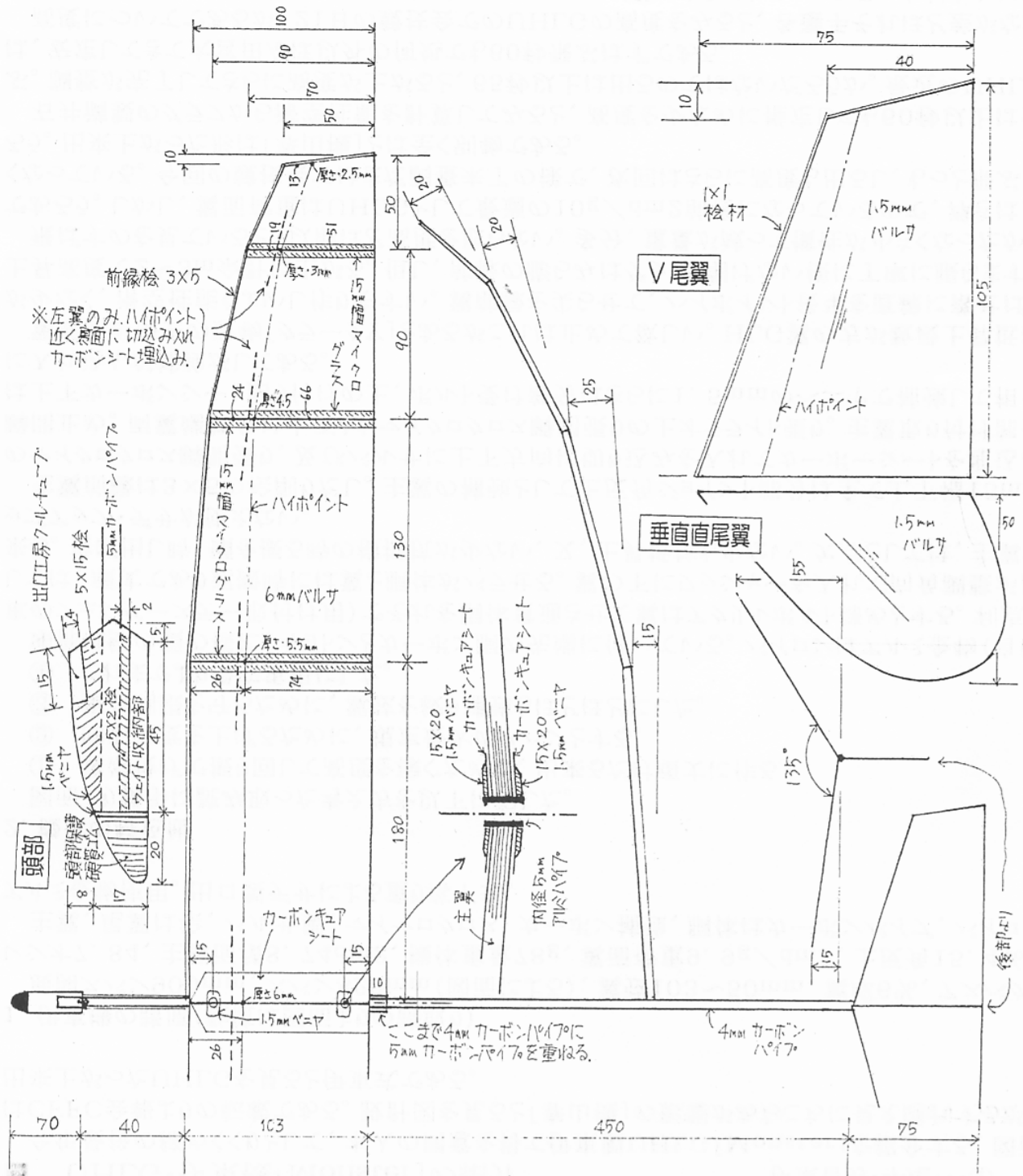
石井満製のグラフから滞空性能を計算してみると、高度を少なめに推定しても60秒以上は飛ぶ。調整が完了してさらに高度が上がると、65秒以上は出るのではないだろうか。最近のUHLGは、安定してきて大宮田んぼ以外の何処でも60秒飛ぶはずである。

高度についてであるが、21日の競技会でのUHLGの高度をみると、各選手それほど差がなかった。と言う事は、それぞれの選手の初速は30~32m/秒のようである。この日、大村さんに頼んでレーザー高度計で高さを測って貰ったところ、25m辺りだった由。石井満氏作成のグラフによると、翼面荷重10g/dm²の機体を初速35mで投げると30m以上の高さになる筈なので、中部の伊東選手もそこまでの速度は出ないようである。練習すれば誰でも25mの高度が出せる筈であり、誰でも優勝のチャンスがあると言えよう。

余談であるが、今回伊東対策用の「高度専用UHLG」を急作した。浮きも悪くない。ハイポイント35%の前縁トンガラカシの純HLG翼で、翼弦100mm、展開スパン800mm、スパン750mm、翼面荷重10g/dm²、アスペクトレシオ約9。完成重量66g。結果はこれまでのフラップ翼と



展開スパン : 900 mm
機体重量 : 78 g
翼面荷重 : 9.6 g/dm²
アスペクトレシオ : 9.99



較べて2～3 m高く上がる。小生が投げて見せると、みんなが「おお・・・」と言っていた機体である。HLG過疎の中部でガンバル伊東選手の健闘を祈る。もっと巧くなりたいのであれば、関東に引っ越しして来るのが良い。長靴はいて待っている。

◆ 雑談天国

平尾・・・・⑩

今回はまさに雑談っぽい話になった。模型屋の悲しい性から、話を飛行機からはずそうと思ってもなかなか外れないものである。

◆あるFF屋の一日

* 朝5時に起床、まずトイレに駆け込んで、お湯を沸かしながら体操、これを約10分。その後歯を磨くがその時に必ず外に出る。そして男の勤めとして玄関回りの安全確認(外に死体が転がっていないか、暴漢は居ないか、それと外気温確認)をする、息子にも同様に言いつけてある。その後洗顔を済ませてお湯を魔法瓶に入れて出発の準備。ガン箱、その他備品を車に詰め込んで点検。財布、時計、帽子、ゴムは大丈夫か、ワインダー、長靴は?等々。準備が終わったところで、再度トイレへ。最近はややキレが悪く、2回はトイレに行かないと落ち着かない。

* 起床後約1時間かかって身体が目覚めたところでようやく出発。5分ほど市街を走って幕張から高速に乗る。その間交差点はほぼ無人で或る。安全は自分で守るべきなので、無論徐行をし安全確認のうゑ、信号はほぼ無視する。誰もいない交差点でパッカーのあんちゃんが、じっと信号を守っているのぐらい「あほ」に見えるに凶はない。アウトローを気取るなら信号なんか守るな! 高速代まず400円。15分程で首都高に入るのだからさらに700円。走行距離約70Km、走行速度100Km程度、朝はガラガラなので時間にして45分程で首都高を降りて大宮バイパスに入り、15分程走って大宮田んぼ。途中で弁当を買って大宮田んぼ到着は7時15分頃。

* 着いてから先着の皆さまに挨拶をして回り、しばらく無駄口を叩いてから飛行機の準備。大型機は飛ばすのに時間がかかるので、手始めに軽くHLGを数回飛ばしてから朝食。大抵はサンドイッチかハンバーガーとコーヒーで済ます。その後必ずアンパンかアップルパイで口直し。

* 本業はF1Bなので、ガン箱を開けて機体を組み立てる。前の晩に簡単に機体を調べているが可動部分の調子を見てから、タイマーのゼンマイを巻き音を聞く。その後手投げ滑空で更に調子を見る。しばらく飛ばしていない時は、ラダーをセンターにセットし手巻き30回程巻き、デサ45秒程度で発航。上昇と滑空の調子を見る。次はフル巻き。

* 最近、他人のゴム巻きをじっくり観察している。そこで気が付いた事は、私が勘定した回数と本人が言う回数が、ままた違う事である。不思議な事に大体5回程私の勘定の方が少ない事に気が付いた。その数の差は不思議と5回である。私の勘違いと思うにはこんな事が何回もありすぎる。これはその人の願望が回数に現れるのか、又は「三味線」か。最近カウンターを使っている人も多いので、やはり私の間違いなのかな・・・。

* 他人の上昇パターンも見ていると、それぞれ個性がある。現在最も多いのが、垂直に近いガンガン頭上げの上昇である。坂巻、田岡氏等がその典型だが、てっぺんでやや平らに旋回する岩田、前田氏の上昇も垂直上昇タイプに近い。この組は今回の選手権で高度が取れなかった人もいるようだ。ここ十年来注目しているのが梅原氏の上昇パターンである。彼のは後半が比較的浅い上昇ながら、最後まで機速があり垂直上昇タイプと同じ高度を取る。頭上げが過ぎてアップアップで進まないのとは違い、下降気流にも強くスイスイ上昇するパターンである。現在私が最も推奨する「上昇パターン」である。

* NSSFの資料によっても、上昇パターンは①スパイラルタイプ ②垂直上昇タイプ と別に③アングタイプと言うのがある。確かにアング(アンドリュージュ)の上昇をみると最後まで頭上げをしながら上がって、いきなりググーと滑空に入るのが不思議である。最近世界戦には出ていないし、その後は他の選手の上昇パターンがどの様になったのか解らないが。

* 飛行機屋の田んぼは、言うなれば女のいない「老春」である。これまで気が付かなかったが、飛行機屋にも「痴漢」は居るのだろうか。もともとこの類の話は議題にも上がらないのは「変態」よりも飛行機の方が「快感」を感じるからだろう。飛行機が相手なので同性愛ではないし、無論異性愛でもない。そうすると飛行機やは、他人にはとうてい理解出来ない、とてつもない「変態」ということになるが……。しかし、飛行機屋にも子持ちは居るし、と言う事は正常な人達なのか・・・。

* 私は40代に白内障になった。空を見ていると突然「痛てて」になって医者に行くと「老人性白内障

障です」と言われた。それから5年後右目の手術、以降コンタクトレンズを使っていた。さらに5年後左目の手術、この時は眼内レンズ。ボケが進んできて右のコンタクトレンズ使用ミス(目薬と間違っ
てレンズの洗剤をさしたり)が増えてきて目が危なくなったので、又、また右目の眼内レンズの為と3回
の手術をやった。

その人工レンズのおかげで裸眼で、近くも遠くも良く見える。但し、目はチンパで片っ方が遠視1.5、もう一つがど近眼である。左右チンパだと遠近感が無いので階段等が危ない。その為、いつも度入りサングラスで左右を補正している。又、度入りサングラスは5m以上が良く見えるように作ってあるので、近くは見えないから眼鏡を外す。とは言っても全く不便はない。但し、飛蚊症でゴミが100個くらい眼内に浮かんでいる。だが、飛んでいる飛行機は良く見えるので模型飛行機やにはこれで十分である。私が死んで灰になると、そこにレンズが2つ転がっている・と言った不気味な事に……………。

ならない、ならない。
* 年を取ると困るのは、機体の回収である。自転車かバイクが必需品になってきた。だから、みんな必死でモトコンボや電動自転車を揃える。最近電動自転車は3万円台でも買えるようになった(インターネット参照)。ところで最近の私の注目はイタリア製の折畳みバイク「**ディ・ブラッシ**」。黒のエンジン回りに黄色のトラス組みボディーでモトコンボより数段カッコイイ。折り畳んだサイズは78cm×38cm×61cmと小さくなり、重量は30Kgとモトコンボより12Kgも軽い。但し値段が249,900円といささか高い気がするが、新品のモトコンボで25万円と言うので、どっこいか。持ち運べるかどうかは別にしてキャリングバックもある。とにかくカッコイイ。自転車もある。

* 冬になると早朝の外気温マエナスの大宮田んぼに、ガタガタ震えながら飛行機屋が沢山集まる。夏は炎天下ダラダラと汗をかきながら飛行機を飛ばす。その狂気の集団が身につける物に随分とスグレモノが増えてきた。水の揮発熱を利用した涼しい帽子や冷える首巻きは結構みんな愛用している。今年は異常気象だったが、冷房付き作業服がテレビで紹介されていた。換気用の小型扇風機が付いていて2万円程度だった。当然ながら暖房付きもある。それらには興味があるが作業服なのでデザインが今一カッコ良くないのだ。スキー服に付けてくれると良いのだが。

余談だがヒーター付き手袋は数年前からある。又、足の筋肉の収縮を助けるパンツがあるようだが、それよりも、走っても走っても疲れず補助動力付きズボンが早く出来ないものか。

* 午後3時頃になると、みんな帰り始める。いつも最後まで居るのは地元の田岡氏と遠方の相沢氏。その他は精神的、体力的な面で遠い方から帰り始める。スタンド、テーブル椅子、飛行機等を仕舞って、石けんでシリコンを落として軽く体操をして帰りの運転に備える。最近では帰りの首都高は池袋から北東に抜けるルートが出来たので、まず渋滞はない。それでも1時間半近くかかる。疲れているので用心しいしい、カッコしないように自分に言い聞かせながら走る。眠くなると飴をしゃぶったりガムを噛んだり、それでも駄目な場合は眠気覚ましに、思い切り緊張して車をぶっ飛ばして追い越しを数回やる。大抵これで眠気が覚めて後は安心して帰れる。帰って、疲れ取りにコーヒーを飲んでお菓子を食べて、時間があれば少しうとうとして、この日も無事だった。

▼ 編集後記

⑪

* 国内の競技会で関東ではモデラーが大勢いるので、それぞれ盛会なのでこれらは問題ない。全国的に「滅び行く種族・FFや」の存続を願うのであれば、地方に・アツカマシク・デバルベキである。**関西・中部の競技会には、歓迎されなくても出かけて勝ってしまおう。**

遊ぶためには何でも飛ばす意気込みが必要である。F1Bだけなんてダメ!!ライトプレーン、ハンドランチ、紙飛行機、ゴム、グライダー、エンジンと多彩に生きたい。お金は無いが暇を持って余す種族は特にガンバロー。ハンドランチはUHLGが使えるので、80才で優勝をねらおう。